

南極地域観測

- 31. 11. 8 日本南極観測隊出航記念 特：東京
- 32. 1. 30 日本南極観測隊上陸記念 ① 特：プリンスハラルド宗谷
- 32. 7. 1 地球観測年 10 円 1 種 特：東京
- 33. 1. 30 南極地域観測記念 ② 特：宗谷昭和基地
- 34. 1. 30 第 3 次南極地域観測記念 ③ 特：宗谷船内、櫛：宗谷船内昭和基地
- 35. 1. 30 第 4 次南極地域観測記念 ④ 特：宗谷船内
- 35. 11. 29 白瀬中尉南極探検 50 年 10 円 1 種 特：東京
- 36. 1. 30 (30. 1. 1961 西暦表示) ⑥ 風：SYOWA BASE 宗谷、櫛：宗谷船内
- 37. 1. 30 第 6 次南極地域観測記念 ⑥ 特：宗谷昭和基地、櫛：宗谷船内昭和基地
- 40. 11. 20 南極地域観測再開 10 円 1 種 特：東京
- 40. 12. 31 南極地域観測再開 ⑦ 特：ふじ、櫛 (E 欄外)：ふじ船内
- 41. 2. 1 南極地域観測再開 ⑦ 特：昭和基地、櫛 (E 欄外)：昭和基地内
- 42. 1. 8 (⑤風とは別図案) ⑧ 風：ふじ船内、櫛：昭和基地内
- 43. 1. 12 (⑤風とは別図案) ⑨ 風：ふじ船内、櫛：昭和基地内
- 44. 1. 6 第 10 次南極地域観測 ⑩ 特：ふじ船内、特：昭和基地内
- 45. 1. 5 第 11 次南極地域観測 ⑪ 特：ふじ船内、特：昭和基地内
- 46. 2. 22⑫、47. 2. 20⑬ (同図案) ⑫⑬ 風・櫛：ふじ船内、風・櫛：昭和基地内
- 48. 1. 1⑭~58. 1. 1⑳ = ⑭~⑳ 風・櫛：ふじ船内、昭和基地内 (⑰、⑱は取扱中止)
- 58. 11. 14 南極観測船「しらせ」就航 60 円 1 種 特：東京
- 59. 1. 1㉕~H19. 12. 26㉙ = ㉕~㉙ しらせ (5002) 風・櫛：しらせ船内、昭和基地内
- H19. 1. 23 南極地域観測事業開始 50 周年 80 円 10 種+シール式 10 種シート 特：東京
- H21. 1. -㉚ しらせ 49 次で退役、50 次には船内局設置なし。
- H21. 12. 15*51 次より新「しらせ」(5003) 就航 風・櫛：しらせ船内、昭和基地内
- H23. 6. 23 南極条約発効 50 周年 80 円 6 種 (シート10 面) 特：東京



南極地域観測

『観』 ◆宗谷船内・昭和基地 S34. 1. (設置) S37. (廃止)

※告示上は次のようになっており、単年度の設置になっている。

S33告示1137号「宗谷船内郵便局昭和基地分室」設置 昭和34年1月から同3月までの間、観測船宗谷が南極プリンスハラルドに接岸の期間中

S34告示 765号「宗谷船内郵便局昭和基地分室」設置 昭和35年1月から同3月までの間において、観測船宗谷が南極プリンス・ハラルドに接岸の期間中

S35告示 843号「宗谷船内郵便局昭和基地分室」設置 観測船宗谷が昭和36年1月以降において南極プリンス・ハラルドに接岸の日から分室を置く。事務取扱期間は、設置の日から日本南極地域観測隊が越冬の期間中。

郵便印は、34.1.30、36.1.10、36.1.26、36.1.30、37.1.30の日付が記録にある

越冬隊は、6次観測隊が帰国すると同時に帰国したので、昭和37年に廃止されたことになる。

『観』 昭和基地内 S41. 2. 中旬(設置) ※実際は41.2.1開局
※開局日には、E欄ハト入りの郵便印を使用している。

※南極観測船(宗谷・ふじ・しらせ)、昭和基地における消印について

南極観測船出航前に記念押印と引受郵便の取扱いを行っている。また、日本宛の引受のみを行い、国際郵便物の引受は行っていないので、欧文印は使用していない。

「プリンスハラルド宗谷」	
1次 1957.1.30特印『日本南極観測隊上陸記念』使用。郵便印はないと思われる。 特印告示S31年1236号 使用局はプリンスハラルド宗谷船内郵便局。 使用期日は日本南極観測隊の南極地域上陸当日(昭和32年1月8日の予定)	
「宗谷船内」	
2次 33.1.30特印『南極地域観測記念』使用。図案の中に「昭和基地」の表示有り。郵便印はないと思われる。 特印告示S32年981号 使用局は宗谷船内郵便局。使用期日は昭和33年1月30日	
「宗谷船内」	「宗谷船内・昭和基地」
3次 34.1.30特印『第三次南極地域観測記念』使用。郵便印?	郵便印使用。34.1.30
4次 35.1.30特印『第4次南極地域観測記念』使用。郵便印?	使用なし。
5次 1961.1.30風景印「宗谷SYOWA BASE」(西暦表示)を使用。	郵便印使用。36.1.10、1.26、1.30がある
6次 37.1.30特印『第6次南極地域観測記念』使用。	郵便印使用。37.1.30
※3次特印告示S33年1138号 使用局は宗谷船内郵便局。使用期日は昭和34年1月30日。	
※4次特印告示S34年 787号 使用局は宗谷船内郵便局。使用期日は昭和35年1月30日。	
※5次の風景印告示S35年852号 使用局は、宗谷船内郵便局と宗谷船内郵便局昭和基地分室。	
4年間の中断の後、新造船「ふじ」で観測再開となる。	
「ふじ船内」	「昭和基地内」
7次 40.12.31 ハト入り郵便印使用。	41.2.1 ハト入り郵便印使用。 1966.2.1特印「南極地域観測再開記念」使用
8次 42.1.8 風景印使用(5次とは別図案)	42.1.8
9次 43.1.12 風景印使用(8次とは別図案)	43.1.12
10次 44.1.6 『第10次南極地域観測記念』	44.1.6 『第10次南極地域観測記念』
11次 45.1.5 『第11次南極地域観測記念』	45.1.5 『第11次南極地域観測記念』
12次以降は、船内局と昭和基地内の両局とも同日付で使用。また、「昭和基地内」でも風景印の使用を開始。	
「ふじ船内」「昭和基地内」	
12次 46.2.22 13次 47.2.20 14次 48.1.1 15次 49.1.1 16次 50.1.1 17次 取扱中止 18次 52.1.1	
19次 53.1.1 20次 54.1.1 21次 54.12.9 22次 取扱中止 23次 57.1.1 24次 58.1.1	
「しらせ船内」「昭和基地内」	
25次 59.1.1 26次 59.12.16 27次 60.12.14 28次 61.12.17 29次 62.12.18 30次 63.12.17 31次 H1.12.18	
32次 H2.12.18 33次 H3.12.18 34次 H4.12.16 35次 H5.12.17 36次 H6.12.18 37次 H7.12.18 38次 H8.12.16	
39次 H9.12.15 40次 10.12.13 41次 11.12.20 42次 12.12.12 43次 13.12.15 44次 14.12.16 45次 15.12.16	
46次 16.12.16 47次 17.12.18 48次 18.12.23 49次 19.12.26	
「昭和基地」 ※「しらせ」は49次で退役のため船内局は設置されていない。	
50次 21.1.--	

南極地域観測

国際地球観測年南極会議(1955.9 ベルギー・ブリュッセル開催)で、日本は南極地域観測への参加を表明した。1957(昭和 32)年「国際地球観測年」に当たり、南極地域の観測が国際的規模で行われることになった。

第1次日本南極地域観測隊 1956(昭和 31)～1957(昭和 32)年の際に、砕氷船「宗谷」に郵便局が設置され、31.11.8 東京港を出港した「宗谷」は、32.1.30 オングル島東北部のプリンスハラルド海岸上陸、基地設置となり、この日が「宗谷」の初めての開局日です。

「宗谷・ふじ・しらせ 5002・しらせ 5003」4代の南極観測砕氷船が南極地域へ就航した記録として郵趣的に整理をし、展開した 80リーフです。

- *第1フレーム… 「宗谷」(1～6次)、主として郵頼記念押印カバー。
- *第2フレーム… 「ふじ」(7～24次)、記念押印カバーに引受消印実遞便(留置き便)を加える。
- *第3フレーム… 複数(3～5)年往復押印カバー、多局印(しらせ船内・昭和基地内)押印カバー。
- *第4フレーム… 37～49次寄港地 PAQUEBOT 便(PERTH・SYDNEY)。
- *第5フレーム… 49～53次寄港地 PAQUEBOT 便(未消カバーに抹消印対応する)。

1次日本南極地域観測隊上陸記念特印 32.1.30 プリンスハラルド宗谷

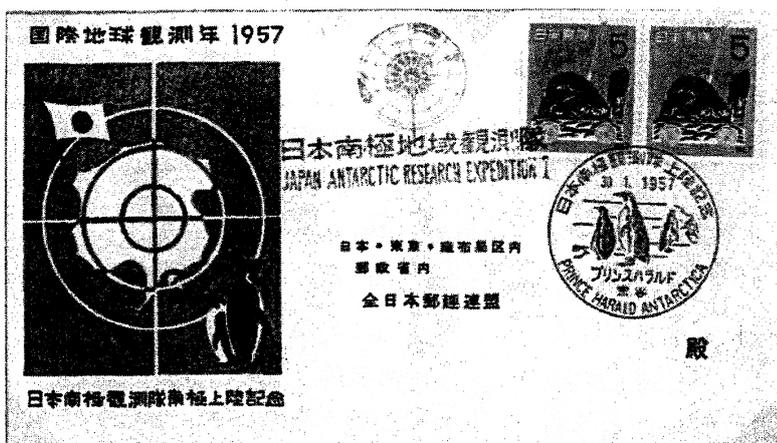


図1

南極地域観測

檜垣廣政

1 南極地域観測への参加

1957 (昭和 32) 年「国際地球観測年」に当たり、南極地域の観測が国際的な規模で行われる事になった。

国際地球観測年南極会議 (1955. 9 ベルギーブリュッセルで開催) で、日本は南極地域観測への参加を表明し、最初の参加 12 か国に加わり、南極条約協議国会議の協議国で原署名国 (英国・南アフリカ・ベルギー・日本・アメリカ合衆国・ノルウェー・フランス・ニュージーランド・ロシア・アルゼンチン・オーストラリア・チリ) となっている。

2 「宗谷」初航海

国際地球観測年における南極地域観測隊の学術観測任務遂行は重いものがあるが、海上保安庁の観測船「宗谷」を 2,796 総トンの砕氷船に改造して南極地域観測の国際的デビューを果たした。

第 1 次日本南極地域観測隊 (昭和 31 [1956] ~ 32 年) の際に砕氷船「宗谷」に郵便局が設置され、31 年 11 月 8 日東京港を出航した「宗谷」は白魔の大

陸南極へと向かった。

32 年 1 月 30 日オングル島東北部のプリンスハラルド海岸に接岸上陸して基地設置となり、この日が「宗谷」の開局日となる。

特印使用告示 (昭和 31 年 1236 号)

特印名：日本南極観測隊上陸記念

使用局：プリンスハラルド

宗谷船舶内局使用日：日本

南極観測隊の南極地域上陸

当日 (32 年 1 月 8 日の予定)

となっている。

図 1 は第 1 次日本南極地域観測隊上陸記念の 32. 1. 30 プリンスハラルド宗谷局特印引受消印押捺の、全日本郵趣連盟宛カバー。

3 「宗谷」就航と労作カバー

第 2 次南極地域観測隊が乗船した「宗谷」は、昭和 32 年 10 月 21 日東京港を出航。一路南下して 12 月 11 日にはケープタウン港を出航し、南極の昭和基地に向かったが天候が悪く、越冬観測の目的を達せず、翌年 2 月 11 日、前年の越冬隊員 11 名を救出したのみで荒れる氷雪の中を引き揚げ、4 月 28



図2



図3



図4

日東京港に帰った。

宗谷船内局で記念押印した郵便物は約18万通、日付は前年の基地設定記念日と同一の1月30日である。

32.10.21 宗谷東京港を出航

32.11.01 まりつき切手発行

32.12.11 宗谷ケープタウン出航

図2の第2次「南極地域観測記念」特印押印、貼付の切手は空輸して完成させた労作カバーである。

まりつき切手発行直後に南アフリカのケープタウンに空輸して貼付、往路寄港地出航に間に合わすことができた。

第3次南極地域観測隊を乗せた「宗谷」は昭和33年11月12日東京港を出航。前回第2次観測隊は悪天候のため接岸・上陸できなかったが、今回は村山越冬隊員ら14人が昭和基地上陸に成功した。

この時に劇的な感動があった。前回基地に取り残された樺太犬14頭のうち、タロー・ジローの2頭が生きていたのである。

33.11.12 宗谷東京港を出航

34.01.30 宗谷局、第3次記念特印

34.02.25 帰路寄港地 Cape Town

局南アフリカ連邦切手貼付押印

図3は「第三次南極地域観測記念」特印記念押印のカバー。

4 南極観測船「宗谷～しらせ」

砕氷船「宗谷」は第1次から第6次

まで（昭和31～37年）南極観測船として就航した。

南極地域観測は昭和37年から3年間中断するが、昭和40年に南極地域観測が再開されて、第7次から24次まで（昭和40～58年）、砕氷船「ふじ」が南極観測船として就航する。

第25次から49次まで（昭和58年～平成20年）は、砕氷船「しらせ・5002」が就航するが、「しらせ」は第50次で退役し、第50次（平成20～21年）の船内局は設置されなかった。第51次（平成21年）以降は、砕氷船「しらせ・5003」が就航している。

本年も第58次南極地域観測隊が乗船する南極観測船「しらせ・5003」が平成28年11月11日東京港を出航する。「しらせ」に開設される「しらせ船内分室」、昭和基地に所在する「昭和基地内分室」において、郵便申込みによる引受消印・記念押印の押印サービス実施が、10月3日に日本郵便東京支社から発表された。

5 白瀬中尉南極探検50年

白瀬蘆（Shirase nobu）中尉が南極探検に出発した明治43（1910）年11月29日を記念日として、50年後に当たる昭和35（1960）年11月29日に白瀬中尉南極探検50年記念切手が発行された。

図4は白瀬中尉南極探検50年記念切手3枚に特印・風景印3種、ならび

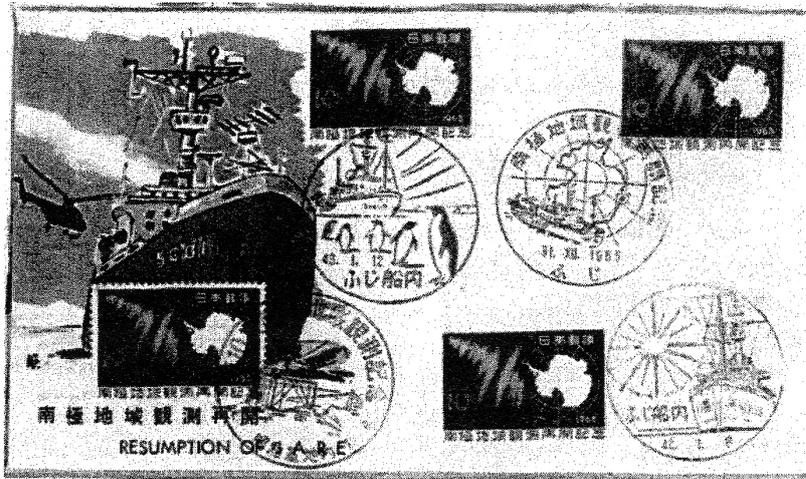


図5.

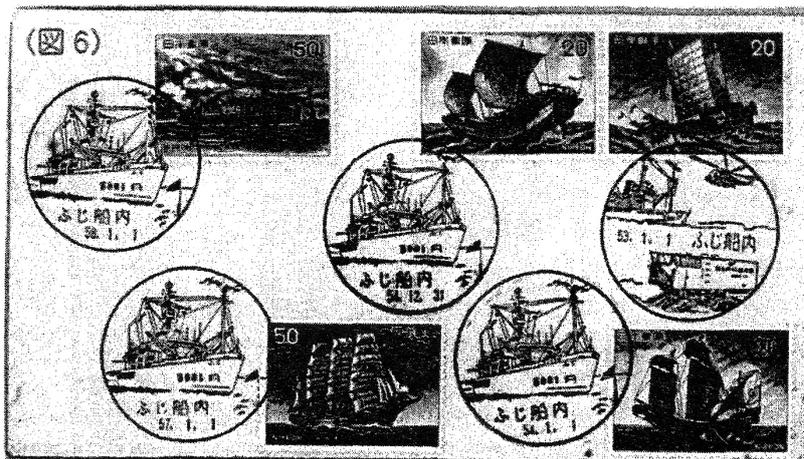


図6

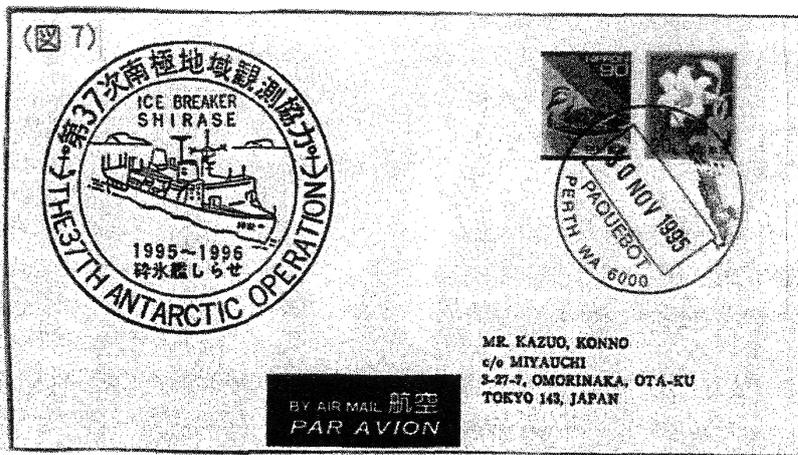


図7

に黒活2種を押印した、南極2往復カバー。

右側は35.11.29の記念特印。このとき宗谷は往路寄港地ケープタウンに向けて航海中で、エアメール便で寄港地(宗谷)へ急送した。

中央左側は36.1.30の宗谷第5次風景印、その右に同年月日の宗谷船内黒活印、第5次記念押印カバー郵頼の返信封は黒活印を切抜き貼付。左側は同日付の第6次宗谷特印、中央下の黒活は宗谷船内昭和基地分室印、第6次カバー郵頼返信封に押されたものを切抜き貼付した。

6 「ふじ船内」複数年

往復カバー

宗谷は第6次南極観測航海をもって退役した。その後3年間の中断があったが、昭和40年「南極地域観測再開」となる。

第7次からは、新造船「ふじ」が就する。

図5は「ふじ船内」の4年往復カバー。ふじ、観測再開記念特印(40.12.31)、ふじ船内第8次風景印(42.1.8)、同第9次風景印(43.1.12)、昭和基地内第10次観測記念特印(44.1.6)。

図6は「ふじ船内」の5年往復カバー。ふじ船内第19次風景印(53.1.1)、同第20次風景印(54.1.1)、同第21次風景印(54.12.31)、同第23次風景印(57.1.1)、同第24次風景印(58.1.1)。

7 往路寄港地からの 返信カバー

図7は「第37次南極地域観測協力砕氷艦しらせ1995～1996」と表示された丸型径6cmのスタンプが左側に押され、往路寄港地パースから戻ってきたカバー。1995(H7)年11月30日、PERTH、第37次AIRMAILPAQUEBOT便。

図8は「砕氷艦しらせ無線局(赤印)しらせ無線電報取扱所(黒印)」カバー。2009(H21)年11月25日PERTH、第51次PAQUEBOT便。

8 未消カバーに抹消印で対応

「しらせ」寄港地PAQUEBOT便のカバーは、数年前からパース、シドニー両局とも印面未消のまま戻ってくる。

この状態を回避するために、自宅到着後すみやかに最寄りの集配局へ出向き抹消印(消印洩れ消印)を押してもらい対応している。

図9は「しらせ」第52次帰路寄港地(シドニー)PAQUEBOT便。2010(H22).3.24 SYDNEY N.S.W.2000。2010成田国際空港支店抹消印。

図10は「しらせ」第53次帰路寄港地(シドニー)PAQUEBOT便。2011(H23).3.21 SYDNEY N.S.W.2000。2011花見川局抹消印。2011.3.25花見川局インク浸透式印(二重)。

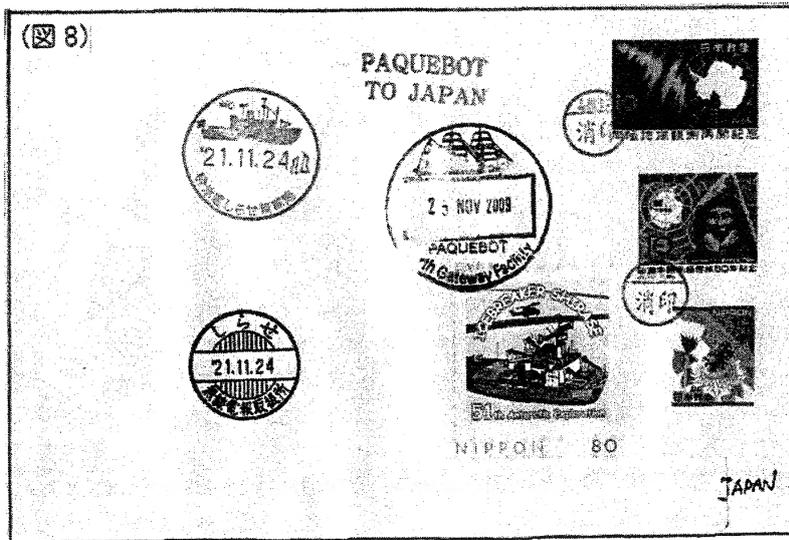


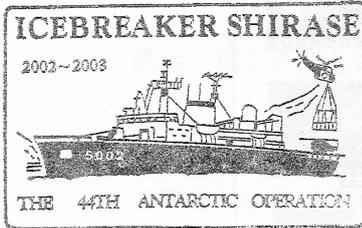
图8.



图9



图10



SHIRASE しらせ
PAQUEBOT



砕氷艦しらせ
ICE BREAKER SHIRASE

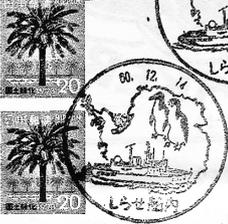
M. Chiaki Kagabayashi
S
4
suzunami nara, japan
168-0073



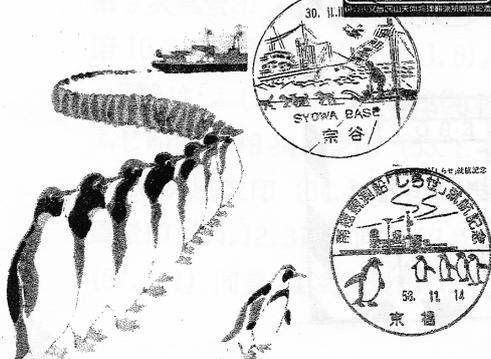
957

日本南極地帯探検
JAPAN ANTARCTIC RESEARCH EXPEDITION I

日本・東京・麻布局区内
郵政省内
全日本郵趣連盟



陸記念



PAQUEBOT TO JAPAN

NAVIRE-PAQUEBOT

昭和基地
SYOWA STATION

JARE 51

VIA AIR MAIL

262-0005
千葉市花見川区二礼台
6-43-14
榎垣廣政研

24 MAR 2010
ANTARCTIC SALES CENTRE